

第93回福島県中央メーデー
2022年4月29日(金) 10:00
福島市「さんかく広場」
※県内各地区でメーデーが開催されますので参加をお願いします。

自治労福島

自治労福島県本部機関紙
E-mail:jichou@jichiro-fukushima.or.jp

第831号
2022年(令和4年)
4月22日
福島市荒町1-21
自治労福島県本部
発行人 澤田 精一



第26回 参議院議員選挙

人員不足と確保が課題 鬼木まこと候補予定者 単組との意見交換

自治労組織内「鬼木まこと」候補予定者は、3月7日〜9日に福島県本部各単組を訪問し意見交換を行った。各単組からは、職場の状況・課題など切実な発言が多く出された。

「鬼木まこと」候補予定者からは、「東日本大震災・原発事故からの復興の取り組みに敬意を表す。九州地域から始まり全国の各県本部・単組を訪問させていただいて

定者からは、「東日本大震災・原発事故からの復興の取り組みに敬意を表す。九州地域から始まり全国の各県本部・単組を訪問させていただいて

「鬼木まこと」候補予定者として、人員不足が課題。職員数が元々足りていなかったが、新型コロナウイルス感染症の対応で職員数の不足がより顕著となった。職員一人ひとりの負担が高まり、2年以上にわたる対応を強いられていることから、メンタルダウン、病休者、若年層の退職者が増えている。

また、職員を採用しようと思っても応募がないことや、内定を出しても辞退され、採用しても退職されることではある。

職員の献身、使命感、責任感に頼らざるを得ない状況が作られているが、そのような公共サービスは間違っている。変えることはできる。そのためにには声を集め、力を集めることが必要。コロナ禍で単組活動も制約されるが、参院選に向けての取り組みをお願いするとあいさつがあった。

単組の課題・意見・要望(抜粋)

- パソコンのリモート接続による在宅勤務でのサービス残業の増加。
- 若手職員の組合・政治活動についての関心の希薄化についてどのように対応していくべきか。
- 地域との共闘の必要性を感じているが、どのようにしたらいいか。
- 若年層の政治闘争への関心が低い。組合がどのように参加すればいいか。
- 大震災・原発事故の風化を感じる。世代間の感覚の違い、震災・原発事故を体験した職員と震災後入職した職員の意識の違い。若年層を教育する余裕もない。
- 技師が不足し、一般事務が仕事している。人員確保ができない。早期退職者が増加している。
- 係長になる年齢が引き下がり、組合活動に支障が出ている。
- 20年間現業職員の採用がない。震災時は現業職員の必要数が多いが対応できない。
- 3月11日で11年が経過する。これまでの支援に感謝する。小さな自治体は一人の職員の業務が幅広く職員は疲弊している。公務員が魅力ある職場となるよう中央で頑張りたい。



あいさつする鬼木まこと候補予定者

福島県選挙区 小野寺あきこ候補予定者を推薦



あいさつする小野寺あきこ候補予定者

県本部は、4月15日に開催した第10回中央執行委員会、第26回参議院議員選挙福島県選挙区について「小野寺あきこ」候補予定者の推薦を決定した。

推薦決定をした小野寺あきこ候補予定者は、同日開催した第10回中央執行委員会、第26回参議院議員選挙福島県選挙区について「小野寺あきこ」候補予定者の推薦を決定した。

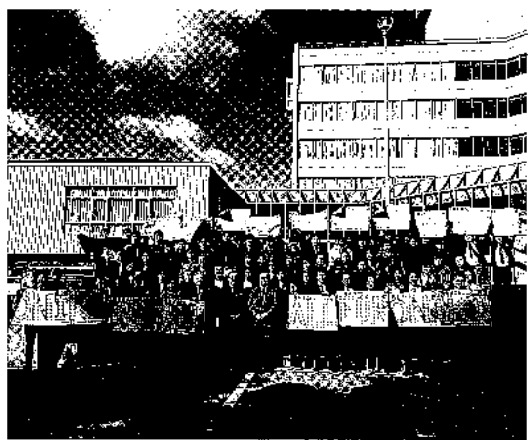
日開催の県本部第5回単組代表者会議であいさつし、「私は11年前の東日本大震災時には福島FMでアナウンサーをしておりました。私自身の新たな挑戦の原点は東日本大震災の経験でした。たくさんの方の情報を届ける中で、自分自身の中には無力さというのを感じていました。同時にいつもリスナーの皆さんから、「いつも流れてくる小野寺さんの声に救われました。」病気をされている方が、病床の中でラジオに耳を傾け、「退院するのが楽しみにになりました。」など、励ましのお言葉をいただくこともたくさんありました。私のエネルギーとなっているのは、リスナーの皆さんからの言葉です。

これまでは、リスナーの皆さん、そして取材に行く先々で出会った皆さんの応援の言葉からエネルギーをいただきました。今度、いただいたエネルギーを恩返しにしたいという思いにいたしました。高齢の方も大変な中で生活していただいている方もいます。働いても働いても楽にならない、という現場

この声も耳にしています。そして、これから未来を築く若い人達も福島県下がり、組合活動に支障が出ています。福島県が、20年間現業職員の採用がない。震災時は現業職員の必要数が多いが対応できない。3月11日で11年が経過する。これまでの支援に感謝する。小さな自治体は一人の職員の業務が幅広く職員は疲弊している。公務員が魅力ある職場となるよう中央で頑張りたい。



澤田中央執行委員長から旗を贈呈



福島市職労・退職者会の皆さん

活動についての関心の希薄化についてどのように対応していくべきか。

○地域との共闘の必要性を感じているが、どのようにしたらいいか。

○若年層の政治闘争への関心が低い。組合がどのように参加すればいいか。

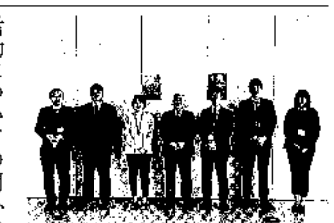
○大震災・原発事故の風化を感じる。世代間の感覚の違い、震災・原発事故を体験した職員と震災後入職した職員の意識の違い。若年層を教育する余裕もない。

○技師が不足し、一般事務が仕事している。人員確保ができない。早期退職者が増加している。

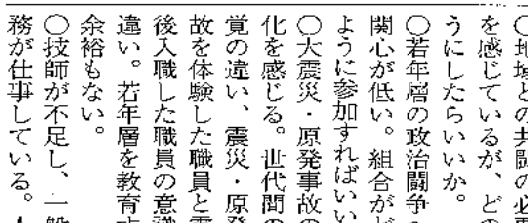
○係長になる年齢が引き下がり、組合活動に支障が出ています。

○20年間現業職員の採用がない。震災時は現業職員の必要数が多いが対応できない。

○3月11日で11年が経過する。これまでの支援に感謝する。小さな自治体は一人の職員の業務が幅広く職員は疲弊している。公務員が魅力ある職場となるよう中央で頑張りたい。



大熊町職労



喜多方市職労

「復旧財源はいつまで続くのか、切られるのでは候補予定者の必勝に向け、軽減のため職員も様々な



いわき市職連合



磐梯町職労

鬼木まこと候補予定者の各単組の意見交換時の写真につきましては、県本部ホームページをご覧ください。

各種 SNS の「友だち」「フォロワー」になってください!

LINE: [QR Code] | Twitter: [QR Code] | Facebook: [QR Code] | YouTube: [QR Code]

立憲民主党参議院比例第15総支部長

鬼木まこと




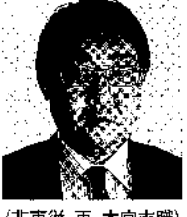

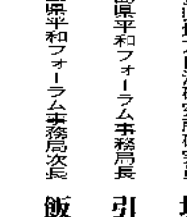
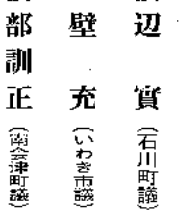
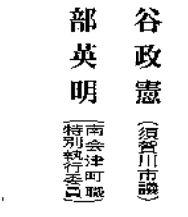
自治労の政策要求を実現しよう!

onikimakoto.com | 自治労は、第26回参議院選挙の全国比例区に「鬼木まこと」さんの擁立を決定しました。

鬼木まことプロフィール
1963年福岡県筑紫野市生まれ。1982年福岡県庁入職。2014年から自治労中央執行委員。

新体制で運動強化と組織拡大を推進

自治労働福島県本部新執行体制

 中央執行委員長 澤田 精一 (離籍・再・南相馬市職)	 組織部長(全県選出) 紺野 均 (専従・新・福島市職)	 中央執行委員(真北総支部) 井上 和弥 (専従・新・福島市職)	 中央執行委員(浜総支部) 庄司 稔 (専従・新・飯館村職)	 中央執行委員(社福部) 松本 和浩 (非専従・新・県社事務)	 会計監査委員 小林 昌史 (非専従・新・県職連合)
 副中央執行委員長 澤村 英行 (非専従・再・県職連合)	 調査部長(全県選出) 和知 聡 (専従・新・県職連合)	 中央執行委員(真北総支部) 村松 和 (非専従・新・二本松市職)	 中央執行委員(浜総支部) 中野 寿一 (非専従・再・いわき市職連合)	 中央執行委員(公企評) 高松 宏行 (非専従・新・県職連合)	 会計監査委員 野内 一昭 (非専従・新・いわき市職連合)
 副中央執行委員長 鈴木 茂 (非専従・再・福島市職)	 自治労働担当中央執行委員 齋藤 浩昭 (離籍・新・福島市職)	 中央執行委員(真南総支部) 草野 文恵 (専従・新・須賀川市職)	 中央執行委員(青年部) 高木 壮大 (非専従・再・本宮市職)	 中央執行委員(公共民間評) 伊藤 和男 (非専従・再・福島スポ振職)	 会計監査委員 長峯 秀之 (非専従・新・会津坂下町職)
 副中央執行委員長 阿部 喜与志 (非専従・新・矢吹町職)	 連合福島担当中央執行委員 前田 伸吾 (専従・再・南相馬市職)	 中央執行委員(真南総支部) 芳賀 正和 (非専従・再・平田村職)	 中央執行委員(女性部) 早川 舞 (非専従・新・本宮市職)	 自治労働本部中央執行委員 八巻 由美 (福島市職)	 福島県地方自治研究所理事 山田 美 (福島市職)
 書記長 根本 和俊 (専従・再・県職連合)	 中央執行委員(真職総支部) 鈴木 貴士 (専従・再・県職連合)	 中央執行委員(会津総支部) 服部 孝徳 (専従・新・会津坂下町職)	 中央執行委員(現業評) 小林 祐一 (非専従・新・県職連合)	 福島県平和フォーラム事務局長 志賀 一幸 (県職連合)	 福島県地方自治研究所研究員 坂内 孝浩 (会津若松市職)
 書記次長 橋内 佑実 (非専従・新・福島市職)	 中央執行委員(真職総支部) 斉藤 年明 (非専従・再・県職連合)	 中央執行委員(会津総支部) 小池 政和 (非専従・新・会津若松市職)	 中央執行委員(衛医評) 安藤 淑子 (非専従・再・岩瀬病院職)	 福島県平和フォーラム事務次長 飯塚 美由希 (会津若松市職)	 福島県地方自治研究所研究員 引地 力男 (県職連合)

特別執行委員

連合福島会長 今野 泰 (福島市職)

自治労働本部中央執行委員 八巻 由美 (福島市職)

福島県地方自治研究所理事 山田 美 (福島市職)

福島県平和フォーラム事務局長 志賀 一幸 (県職連合)

福島県地方自治研究所研究員 坂内 孝浩 (会津若松市職)

福島県平和フォーラム事務次長 飯塚 美由希 (会津若松市職)

福島県平和フォーラム事務次長 引地 力男 (県職連合)

(自治体議員連合)

紺野 長人 (県 議)

高梨 浩 (会津若松市職)

渡辺 實 (石川町議)

深谷 政憲 (須賀川市職)

上壁 充 (いわき市職)

渡部 英明 (西会津町職)

渡部 訓正 (西会津町職)



須賀川市職労



双葉町職労

業務以外行えず、その担当業務についても職員が手伝っている。席は埋まっているが人員削減のような状態。

○人員不足。特に技術系の職員が不足している。また、コロナ対応で職員が疲弊している。人事評価制度は12月から勤勉手当に反映されている。

○支払基金と国保連の統合問題について今後も支援をお願いする。



単組との意見交換の様子

○この単組でも人員不足が課題。災害からの復興・復興、そしてコロナ禍でより深刻化している。メンタルダウン、若年層の退職者の増加は全国的な課題。よりよい条件の近隣自治体へ移るといった話もよく聞く。公務員にやりがい、誇り、希望が失われてしまっている。働き続けられる、最大限能力を発揮できる

○若年層の組合・政治活動への関心の低さは我々の若い頃からずっと言われ続けてきた。少しでも関心を持ってもらうためにも積み重ねが大事である。日々の職場での議論や意識の共有をはかることが意識の改善となり共感の輪が広がると考えている。

また、今回の単組意見交換に、本部八巻中央執行委員(福島市職出身)も同行し、「この間の参議院選挙比例区の名前の投票結果は、組合員の半数の結果も出せていない。県内も同様の状況である。労働条件の改善には単組での取り組みももちろんだが、国会・省庁対策も必要。私たちの声を国会に届けてくれる組織内国会議員が必要。鬼木まこと」の名前の浸透に向けて、単組での一層の取り組みをお願いする」と要請があった。

○原発事故により全町避難。新庁舎が7月に完成予定、8月末を目標に帰還の準備を進めている。船町からの支援をお願いする。

○職員が同じ目標に向かってやるというビジョンが不足。会計年度任用職員と正規職員で意識の差がある。定年延長の職員がどれくらい気力をもってやれるのか、わかからない。自治体間の格差が拡大するのは。

○人員不足がコロナ禍で顕在化した。コロナ以前は食事を取りながら職場座談会を実施したが、今はできない。

鬼木まこと候補予定者の考えと決意

環境を作らなければならぬ。定員をどうするかは自治体の判断であり行政需要に依られる財源確保に向け対策を進めていきたい。

○震災・原発事故の対応について多くの単組から声をいただいた。この間のコロナ対応もそうだが国の対応が遅い。すぐ変わることで自治体は翻弄されている。マスコミへの情報提供が早く、自治体にも具体的な情報がない段階で住民から問い合わせがあっても答えられない。江崎議員とよく意見交換をするが国と地方の関係が以前とは違い、おかしくなっていると話している。議席をいただければ、岸・吉田両議員とともに頑張りたい。

また、今回の単組意見交換に、本部八巻中央執行委員(福島市職出身)も同行し、「この間の参議院選挙比例区の名前の投票結果は、組合員の半数の結果も出せていない。県内も同様の状況である。労働条件の改善には単組での取り組みももちろんだが、国会・省庁対策も必要。私たちの声を国会に届けてくれる組織内国会議員が必要。鬼木まこと」の名前の浸透に向けて、単組での一層の取り組みをお願いする」と要請があった。

また、今回の単組意見交換に、本部八巻中央執行委員(福島市職出身)も同行し、「この間の参議院選挙比例区の名前の投票結果は、組合員の半数の結果も出せていない。県内も同様の状況である。労働条件の改善には単組での取り組みももちろんだが、国会・省庁対策も必要。私たちの声を国会に届けてくれる組織内国会議員が必要。鬼木まこと」の名前の浸透に向けて、単組での一層の取り組みをお願いする」と要請があった。